

はぐくむ

子育て王国の今

本紙連載企画「はぐくむ」子育て王国の今」第1部の「産科医不足」(1月6日付)に、一つの意見が寄せられた。産科医不足の原因の一つとして「訴訟リスク」を挙げた記事を疑問視し、「患者と医師の話し合いにより医療紛争は早期に解決する」と訴える内容だった。

意見寄せた鳥取県医療問題弁護団共同代表の高橋真一弁護士(31)に、医療訴訟の実情を尋ねた。(聞き手は西部本社・清水友揮)

「訴訟リスクは産科医不足の原因とは言えないのか。」

「医療側は、悪い結果が発生してしまえば訴訟になると誤解しているのではないか。しかし、訴訟は『結果責任』を問うのではなく、診療当時の

訴訟リスクで産科医不足？



「医師と患者との話し合いで紛争は早期に解決する」と話す高橋弁護士＝米子市内

番外編 鳥取県医療問題弁護団共同代表の高橋真一弁護士に聞く

産科医が減ってしまうの床研修制度の問題や、過酷な診療科を避ける傾向産自体に命の危険(リスク)があると思う。2004年(無罪が確定)され、医療側が反発した。それが尾を引いている面もある

「訴訟せずに早期に補償されるので、患者側の心理的・経済的負担が少なくなる。」

「医療側が丁寧に説明し、責任がある場合に速やかに賠償するシステムが確立すれば、訴訟を恐れることはなくなるし、患者側も一生懸命やっては周知不足。医師がきちんと説明してほしい。」

「訴訟になる前に、患者と医療機関はどうすればいい。」

「本来、患者は何でも遠慮せず質問すべきだが普通はできないので、分かるように医療側が説明しないといけない。医療事故で患者が求めるのは『元に戻してほしい』というところ。それが無理な場合は『真相を知りたい』『再発防止に生かしてほしい』『悪い点があったのなら反省して謝ってほしい』『損害を賠償してほしい』

「病院から説明がなくて真相が分からない」と謝罪の言葉ひとつない」といふ人が多く、救済窓口として患者の権利救済に熱心な県内の弁護士有志で結成した。徹底して調査した上で患者の人権確立のお手伝いをし、最終的には医療制度の改善や診療レベルの向上につなげたい」

医療側には誤解も早期解決

話し合いで早期解決

「訴訟リスクは産科医不足の原因」と言えないのか。医療側は、悪い結果が発生してしまえば訴訟になると誤解しているのではないか。しかし、訴訟は『結果責任』を問うのではなく、診療当時の

ジビエ肉と鳥取 地鶏を組み合わせた料理の紹介。ジビエ肉、地鶏、カフェ、生菓をふんた薬膳鍋にジビエ料理を添える。